

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意
祛痰剂 清熱化痰剂 1		
うんたんとう 温胆湯	理気化痰・清胆和胃	半夏・竹茹・枳実各6g・陳皮9g・炙甘草3g・茯苓5g 生姜・大棗と水煎し服用する。
三因極一病証方論	<p><主治> 胆胃不和・痰熱内擾 悪心、嘔吐、いらいら、口が苦い、不眠、驚きやすい、動悸、多痰、胸苦しい、めまい、てんかん発作、舌苔が微黄膩、脈が滑あるいは弦でやや数などを呈す。</p> <p><病機> 脾失健運により内生した痰が胆を阻滞し、胆気が疏泄できないために鬱して胆火を生じて痰を化熱させ、胆気が横逆して胃気上逆を引き起こしたり（胆胃不和）、熱痰が擾動する病変である。 胆気が鬱し化火しているために、いらいら、口が苦い、目がくらむなどを呈する。胆火犯胃で、胃気が上逆すると、悪心、嘔吐が生じる。痰熱が上擾して心神不安を引き起こすと不眠、動悸、驚きやすいなどが、肺を犯すと多痰、胸苦しい、咳嗽などが、清竅を上擾するとめまい、甚だしければてんかん発作が発生する。舌苔が膩、脈が滑は痰を、舌苔が微黄、脈がやや数は化熱を、脈が弦は胆気鬱滞を、それぞれ示している。</p> <p><方意> 痰熱を除去して胆気を舒暢させ、胆胃不和、痰熱内擾を消除する。 燥湿化痰、降逆和胃の半夏が主薬で、清化熱痰、止嘔除煩、清胆の竹茹が補佐し、降気、行気の枳実を配合することにより胆気を舒暢させ痰を下行させる。理気燥湿の陳皮と健脾滲湿の茯苓は、除湿消痰を強めると同時に、炙甘草・大棗・生姜と健脾和胃に働いて生痰を防止する。全体で理気化痰・清胆和胃の効能が得られる。</p> <p><参考> 本方（温胆湯）は、温胆湯<備急千金要方>（半夏・竹茹・枳実・陳皮・炙甘草・生姜）の加減方で、茯苓・大棗を加え、生姜を減量している。</p>	
おうれんうんたんとう 黄連温胆湯	理気化痰・清胆和胃	温胆湯 + 黄連 1.5~3g 水煎し服用する。
六因条弁	<p>主治は、胆胃不和、痰濁内擾で熱証が顕著なもの。 温胆湯に、苦寒の黄連を加えて、清熱燥湿、止嘔を強めている。</p>	
ちくじょうんたんとう 竹茹温胆湯	理気化痰・清胆和胃	柴胡3g・竹茹6g・桔梗・枳実・黄連・人参各3g・麦門冬1.5g・陳皮3g・半夏2g・茯苓3g・甘草6g・香附子2g <黄連温胆湯の組成+（柴胡・香附子・桔梗・人参・麦門冬）とし、>これを生姜・大棗と水煎し服用する。
寿世保元	<p>「傷寒が長引いて、その熱が退かず、夢寝易からず、心驚恍惚、煩躁し、痰多く、不眠のもの」と表現される痰熱上擾があり、熱証がつよく、少陽病で痰熱が内擾した状態に用いる。 黄連温胆湯に、胆気を疏通する柴胡・香附子と祛痰の桔梗を加えて理気化痰・清胆和胃し、熱邪と祛湿薬による気津両傷に配慮して益気生津の人参・麦門冬を配合している。 本方（竹茹温胆湯）は、小柴胡湯（柴胡・黄芩・半夏・生姜・人参・大棗）の黄芩に代えて清心の黄連を用い、これに温胆湯を配合したものと考えてもよい。 日本での保険適応効能、効果 インフルエンザ、風邪、肺炎などの回復期に熱が長引いたり、また平熱になっても、気分がさっぱりせず、咳や痰が多くて安眠が出来ないもの</p>	
じゅうみうんたんとう 十味温胆湯	化痰寧心	半夏・枳実・陳皮各6g・茯苓4.5g・酸棗仁・遠志・五味子・熟地黄・人参各3g・炙甘草1.5g 生姜・大棗と水煎し服用する。 「温胆湯 - 竹茹 + (人参・熟地黄・五味子・酸棗仁・遠志)」に相当する。
証治準繩	<p>主治は、痰濁内擾、心理虚怯による驚きやすい、動悸、不眠、煩悶などの症候。 本方（十味温胆湯）は、温胆湯から清熱化痰の竹茹を除き、益気養血安神の人参・熟地黄・五味子・酸棗仁・遠志を加えて、痰濁を除き、寧心安神する。</p>	